

校長室より

二松学舎大学附属高等学校

校長 鶴飼敦之

「二松から飛翔へ」

2学年 沖縄修学旅行 ～日常から非日常へ～

楽しかった修学旅行が無事終了し、生徒たちと共に新たな思い出を築くことができたことを嬉しく感じています。そして、支えていただいた多くの方に感謝の思いで一杯です。

修学旅行は、生徒たちにとって日常から離れ、非日常の素晴らしい冒険となりました。日常生活では味わえない刺激的な瞬間が詰まった数日間でした。美しい沖縄の島々で新たな思い出を重ね、平和の大切さを再認識する機会ともなったことでしょう。

平和学習の一環として訪れた『平和祈念公園』、『平和祈念堂』では戦争を知らない歴史の証言継承者から話を聴き、平和の大切さと平和を築くために努力する必要性について学びました。『平和祈念資料館』や『平和の礎』では、平和への願いと希望を改めて感じ、私たちにとって特別な場所となりました。この訪問を通じて、平和への責任と将来に向けた平和への取り組みを強く意識した瞬間でした。

また、『首里城』など歴史的な遺跡では、日本のみならず世界遺産として文化的な価値を有する沖縄の歴史や文化を確認することができました。

体験学習では、非日常的な自然や、透明な海水、カラフルなサンゴ礁、陽光が照りつける砂浜。これらの景色は、日常のストレスを忘れさせ、私たちの心に癒しをもたらしました。沖縄の自然、その美しさに触れることで、環境への意識も高められました。更に、沖縄の食事を堪能し、伝統舞踊を体験することでこの沖縄の地の文化を目や耳でそして肌で感じることができました。

旅行中、新しい友の発見もあったことでしょう。共に沖縄の魅力を楽しむ中で、友情を深め、絆を築く機会となったのではありませんか。そして、様々場面でグループや仲間との活動を通して、協力しスムーズな行動につながることができました。これらの経験により、私たちが日常生活での挑戦にも立ち向かえる力を養うなど、成長につながりました。

沖縄訪問から帰ってきた今、私たちは非日常の素晴らしい経験と平和学習を胸に、日常生活に戻りました。新たな視点を持ち、友情を深め、平和の大切さを理解し、将来に向けて社会を築くための使命感を新たにしましょう。今回の非日常の冒険が、私たちの人生において特別な場所を占め、未来への希望と励ましとなることを願っています。



